

氏名	なりた ちえこ 成田 智恵子
学位(専攻分野)	博 士 (学術)
学位記番号	博甲第 800 号
学位授与の日付	平成 28 年 3 月 25 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
研究科・専攻	工芸科学研究科 先端ファイブロ科学専攻
学位論文題目	定性的・定量的手法を用いた伝統工芸における社会・産業的実態の解明-京蒔絵を対象として-
審査委員	(主査)教授 濱田泰以 教授 西村寛之 准教授 桑原教彰 准教授 来田宣幸 京都産業大学文化学部京都文化学科教授 下出祐太郎

論文内容の要旨

近年、伝統的工芸品産業は生活様式の変化による需要の低迷、原材料や生産用具などの生産基盤の減衰、人材不足など様々な課題を抱えている。これらの課題を解決するために、経済産業省をはじめとして官民間わず種々の支援策が考案・実施されている。しかし、伝統的工芸品産業は減衰の一途を辿っており、依然として改善の兆しは見られていない。そのため、現状の課題として考えられているものの「問題の所在」とは何であるのかということを学術的に検証する必要がある。前提として、伝統的工芸品産業は伝統的工芸品産業の振興に関する法律に規定された特殊性を持つものづくり産業である。そのため、継承問題について論じるためには、継承の基盤となる伝統的工芸品産業についての検討を行なう必要がある。また、産業を支えるヒトとモノの両側面に着眼し、技能者の考え方や伝統的工芸品の制作に不可欠な材料の現状を明らかにすることは、伝統工芸のみならず他のものづくり産業や学術的にも意義がある。本論文では伝統的工芸品産業の社会・産業的実態を解明するために、継承問題における問題の所在に関する検討、後継者候補と現役の産業従事者の職業に対する意識調査、材料の現状調査の 3 つの観点から総合的に研究を行なった。

第 2 章では、職人の技能の定義付けを行ない、近年のものづくりの技能継承の在り方とその問題点をもとに技能継承における問題の所在について論じた。また、伝統的工芸品産業の継承問題における問題の所在について明らかにした。その結果、職人の技能とは暗黙的領域を持ちながらも、客観的記録や刺激に対して技能者が主体的な意味づけを行なうことによって表出伝達ができる可能性を持つ身体的な知識であるということを示した。また、技能継承における問題の所在として、定量的手法と定性的手法の両手法を包括した実践がなされていないことが分かった。さらに、伝統的工芸品産業の継承問題における問題の所在には、産地・業種・職種の差異、伝統的工芸品産業が持つ産業的側面と文化的側面の差異、職人の技能に対する捉え方の不明瞭さがあるということを示した。

第 3 章では、伝統的工芸品産業を取り巻く人材の意識に着眼し、産業の従事者候補である工芸の実技を学ぶ学生および現状の産業従事者の職業や工芸に対する意識について検討を行なった。

その結果、伝統工芸を志向する学生は《専門性志向型》、《受け身型》、《伝統工芸志向型》の3つの類型に分類されることを明らかにした。また、伝統工芸士は自己の資質・能力、伝統工芸への対応力、継承環境、熱意を職業継続成功要因として考えていることを明らかにした。さらに、伝統工芸士は立場と仕事内容の違いによりスキル修得方法に対する考え方異なるということを明らかにした。

第4章では、現状の産業従事者である師匠・弟子の意識の比較から、蒔絵職人の専門家アイデンティティについて検討を行なった。その結果、蒔絵職人の専門家アイデンティティには、“反復作業の重要性”などの時代の変化に伴わない4つの専門家アイデンティティと“社会的要件に対応可能な技能の修得”などの時代の変化に伴う4つの専門家アイデンティティがあるということを明らかにした。

第5章では、100年以上に渡り持続的に仕事を続けている蒔絵の工房に着眼し、経営学的観点からその成功要因について検討を行なった。その結果、伝統的工芸品産業において持続的に経営を行なっている蒔絵の工房は、作家経験による創作性と発信力を持つ職人である経営者と、経営者の構想に応える技能を持つ職人との体制を保持しているということを明らかにした。また、“熟練技能を活かした現代の需要に応じた価値づくり・人づくり”などの4つの方法によって産業の変化を乗り越えてきたことを示した。

第6章では、蒔絵材料の現状を明らかにするために、漆の表面仕上げ材料に着眼し、材料と劣化の関係について検討した。また、蒔絵に用いられる金銀粉の特性を評価した。その結果、シリコン仕上げを行なった漆塗膜表面と蠟色仕上げを行なった漆塗膜表面には明度、光沢度、親水性に差異があることを明らかにした。さらに、表面仕上げの違いに関わらず、紫外線照射に伴う劣化の動向はほぼ同一であることを明らかにした。また、現在流通している2社の蒔絵金丸粉は号数の違いに関わらず、全てほぼ同一の元素構成をしているが、形状には大きな差異があることを明らかにした。さらに、銀丸粉の粉形状や元素の構成比の違いに関わらず、磨きによって表面の硫化を取り除くことができる事を示した。

第7章では、本研究によって得られた知見を総括した。さらにそれらの結論の意味するところを吟味した。

論文審査の結果の要旨

本研究は、従来看過してきた伝統的工芸品産業の継承問題の「問題の所在」に着眼した点、および定性的手法と定量的手法を用いて対象を総合的に検討した点において、研究対象と手法に関する新規性が認められる。また、後継者候補と産業従事者の職業に対する意識を多様な観点から論じることによって、産業における人材育成・活用の指針を得た点に結果の新規性が認められる。さらに、伝統的工芸品の制作・継承において不可欠となる材料の特性に着眼し、漆およびその代替材料の劣化過程を明らかにした点、そして蒔絵粉の微細構造を明らかにした点は、工学的に意義がある。

本研究は、一般的に考えられているような伝統的工芸品産業の文化的側面のみならず、産業的側面の重要性を指摘している。文化的側面と産業的側面の両側面を考慮した上で、社会的変化に応じた可変性という産業の継承・持続に必要な観点を明らかにした点は、同産業の継承問題を考える上で非常に有意義であり、学術的意義がある。本研究によって、伝統的工芸品産業の社会・

産業的実態を解明したことは学術的に評価できる。

本論文の内容は次の8報に報告されており、8報すべて申請者を筆頭著者とするものである。

1. 伝統的工芸品産業の技能継承における問題の所在

成田 智恵子、下出 祐太郎、来田 宣幸
京都工芸繊維大学紀要（投稿中）

2. 伝統工芸を志向する学生の意識調査

成田 智恵子、来田 宣幸、吉田 浩之
身体運動文化論攷, (14), pp.127-149, 2015.

3. 伝統工芸士の職業に対する意識についての研究

成田 智恵子、来田 宣幸
応用心理学研究（投稿中）

4. Study on the Professional Identity of Japanese Traditional Craftspeople: Through Interviews with Maki-e Craftspeople

Chieko Narita, Yutaro Shimode, Kazushi Yamada, Noriyuki Kida
Advances in Anthropology, 5, pp.282-293, 2015.

5. 京都の蒔絵工房における持続可能なものづくりの在り方に関する事例研究

—伝統工芸士へのインタビューを通じて—
成田 智恵子、下出 祐太郎、来田 宣幸
文化経済学, 12(2), pp.22-37, 2015.

6. Influence of the Finishing Methods of Urushi Products on Degradation

Chieko Narita, Yutaro Shimode and Kazushi Yamada
Progress in Organic Coatings (投稿中)

7. Study on Characteristics of Gold Powder with Round Shape for Maki-e

Chieko Narita, Yutaro Shimode, Kazushi Yamada
Materials Sciences and Applications, 6(10), pp.841-849, 2015.

8. Study on Properties of Silver Powder for Maki-e

Chieko Narita, Yutaro Shimode, Kazushi Yamada
Materials Sciences and Applications, 6(01), pp.1-8, 2015.

以上の結果より、本論文の内容は十分な新規性と独創性、さらに産業的な意義があり、博士論文として優秀であると審査員全員が認めた。